第１回　京都市大学のまち交流センター指定管理者選定委員会　摘録

日　時	令和８年７月６日（月）１５：５５～１７：５３	
場　所	京都市役所本庁舎第１会議室	
出　席	【委員長】京都府立大学 社会科学部 教授	川勝　健志
	【副委員長】税理士	有田　耕介
	京都新聞社 文化部編集委員兼論説委員	松田　規久子
	京都外国語大学 共通教育機構 准教授	山﨑　その
	市民公募委員	福田　拓
事務局	京都市　総合企画局　国際都市共創推進室大学政策担当	

１　開会（挨拶、委員紹介等）

司会：上田大学政策第二課長

牧山 大学政策部長	＜開会挨拶＞
事務局	＜委員紹介、開催確認、資料確認、議事確認、公開・非公開の確認※＞ ※「（５）審査方法及び審査項目について」は非公開とされた

２　趣旨説明

（１）施設の概要及び現在の指定管理業務の内容について	
事務局	＜資料１の説明＞
（２）指定管理者選定委員会について	
事務局	＜資料２の説明＞

３　議事

（１）委員長及び副委員長の選任について	
事務局	資料２京都市大学のまち交流センター指定管理者選定委員会設置要綱第５条第２項に基づき、委員長に川勝委員、副委員長に有田委員を選任。
	＜異議なし＞
川勝委員長	この委員会の委員就任は今回が初めてである。他の委員の方には、既に委員経験のある方もいらっしゃると聞いている。初めての方も初めてでない方も、皆様忌憚なく意見を出していただき、審査に取り組んでいただけたらと考えている。
事務局	以後の議事進行は、設置要綱第６条第２項に基づき、川勝委員長にお願いする。
（２）次期指定管理者の候補となる団体の選定方法について	
川勝委員長	議事の「（２）次期指定管理者の候補となる団体の選定方法について」、事務局から説明をお願いする。
事務局	＜資料３について説明＞
川勝委員長	事務局から説明があったとおり、今回も非公募で公益財団法人大学コンソーシアム京都（以下「コンソ」という。）を唯一の団体として

	進めていきたいと思うが、いかがか。
	＜異議なし＞
川勝委員長	それでは、コンソを指定管理者の候補とすることとして、選定作業を進めることとする。
（３）次期指定管理業務の内容について	
川勝委員長	次に、議事の「（３）次期指定管理業務の内容について」事務局から説明をお願いする。
事務局	＜資料４について説明＞
松田委員	京都駅前という好立地にありながら、各大学のキャンパス機能が充実してきたことも影響し、学生の利用が低迷している現状を懸念している。今後は組織の枠組みを超えて、大学現場の方たちの意見を取り入れる必要がある。今回、指定管理者に求める要件として「自己評価の実施」などの新規項目が盛り込まれたことは、良い取組であると思う。
山﨑委員	松田委員と同感である。 今回新しく追加された「自己評価」の取組は、非常に重要であると考える。しかし、現在全く自己評価が行われていないかというと、決してそのようなことはないと思う。 そのため、単に「自己評価をしてください」と伝えるだけでは、「もうすでにやっている」と受け取られてしまう恐れがある。重要なのは、具体的にどのような自己評価を行えば効果的なのか、京都市も交えてしっかりと議論を重ねることである。 自己評価を実際の業務改善に結びつけることは非常に難易度が高いと感じる。だからこそ、その仕組みづくりについては、大学、京都市が一体となって考えていってほしい。
有田委員	指定管理者の立場からすると、行政から「これをやってください」と指示された基本業務を確実にこなすことに重きを置きがちで、能動的に+αのものを展開することは立場上なかなか難しい側面もあると思う。問題意識は共有されていても、具体的にどう動くかという点で停滞してしまう恐れがある。行政側も、もう少し具体的な方向性を主導して示していかなければ、根本的な解決は難しいのではないか。
福田委員	利用者の立場としても、京都駅前という非常に素晴らしい立地にある施設が最大限に活用されていない現状はとても残念に思う。資料内の「大学に関する情報の収集及び提供」は、主に高校生が実施するものであり、利用促進の対象についても、現在の大学生だけでなく、将来の大学生である「高校生」も視野に入れてはどうか。
川勝委員長	山﨑委員の意見のとおり、自己評価を形骸化させず、大学・学生の利用低迷の真因を丁寧に現状分析してもらう必要がある。 京都市が直営でやるより、よりよいサービスを提供できることが必要である。現状分析を丁寧に行った結果、コンソだからこういう改善ができるということも示してもらう必要がある。 有田委員の指摘については、指定管理者が単に委託業務を粛々とこ

	なすだけでなく、京都市と密なコミュニケーションを取り、より良いサービス提供に向けて対等な立場で能動的に動ける関係性が必要である。例えば学生 PLACE＋に関しても、本当に相乗効果が起きるのか、相乗効果を起こすにはどうしたらいいのかについて分析する必要がある。 　情報発信においても、これまでにも様々やってきたと思うが、どういうツールで情報を届けているのか、また、その方法によって、きちんと情報がキャッチされ、効果を発揮し、利用に結びついているのかという点の分析も必要と思う。 　発信するツールや時間帯、発信先で、属性ごとに見ていくと、より効果的な情報発信の仕方がそれぞれにある。発信ツールが多様化すると、管理が大変な面はあるが、多様なほうがキャッチしてもらいやすい。 　サービス向上のために市側からの積極的な働きかけと、コンソ側の主体的なアップデートが非常に重要になる。
山﨑委員	非営利団体として、これまでボランタリーに運営されてきた実績は認めるが、指示された内容を間違いなく粛々と運営するだけの姿勢では限界ではないか。もう少し戦略的・主体的に、自分たちで資金を稼いででも、集客につながる魅力的な事業を展開するような、野心的なマインドを持ってほしい。必要であれば外部コンサルタントを導入するなど、ある程度の自由度を持たせつつ、一歩踏み出した魅力的な運営を求めるべきである。
川勝委員長	各大学の独自サービスの充実や、学生のタイパ・コスパ意識などの環境変化を踏まえ、コンソがマインドセットを行う必要がある。福田委員が提案した高校生の利用についても、どのようなニーズがあって、どういうサービスを利用していただけるのかを把握のうえ、マッチするようなサービスを提供できればよい。
（４）指定管理候補者の選定方法等について	
川勝委員長	続いて、「（４）指定管理者候補者の選定方法等について」、事務局から説明をお願いする。
事務局	＜資料５、６の説明＞
有田委員	この４年間の実績について、資料で提出して欲しい。「前回の選定委員会で受けた指摘に対し、具体的に何を改善し、何ができなかったのか」の現状分析と実績を振り返る資料を、提出書類の中に組み込んでほしい。
福田委員	具体的にどのような大学や団体がこの施設を利用しているのか、ある程度の実績や説明が提出書類の中に示されるといい。また、現在はインカレサークル等の利用が多いイメージだが、単一の大学内だけで活動しているサークルなども気軽に利用できるよう、「利用促進に向けた考え方」として、学内団体の利用も歓迎する旨の明記や、そうした層への宣伝、利用促進のアプローチがあるといいのではないか。
川勝委員長	「大学関係者や学生の利用促進に向けた考え方」を書いてもらう際

	は、これまでの利用実績と現状分析に基づいた根拠をもとに、利用促進策の考え方を求めることが大切である。同時に一般の方がどういう使い方をしているのかという分析が必要とも感じた。 大学の中でサービスの充実化が図られており、自学で完結できることが増えてきている中で、利用を増やすことを求めるのは気の毒な面もある。 コンソだけで出来ることに限界があると思っているので、現実的には、量的な増加を求めるのではなく、利用してよかったと思えるサービスの質の向上を求めていくことが必要であると思う。
松田委員	生涯学習事業について、講座数は維持されているものの、受講者数が減少している点が気になる。リカレント教育が重視される時代において、この受講者数は、何か見直すべきところがあるのではないか。 ホームページで実施されている「利用者アンケート」についても、実施していること自体は評価できるが、重要なのは「何を聞くか」である。実態調査のデータとして次に活かせる適切な項目設計をすべき。
山﨑委員	私も松田委員の意見と同様に、利用者アンケートを実施するにしても「何を聞くか」ということが極めて重要だと考える。 運営計画において、現状を分析し「これだけの施策を行い、これだけ集客でき、数字はこうだった」というアウトプット（実績）を並べるだけでは、従来の自己評価と変わらない。評価の視点を一段引き上げ、アウトプットだけでなく、アウトカム（成果）やインパクト（影響）まで見据えた評価を行う必要がある。例えば、コンソの活動を通じて京都の魅力がどれほど向上したのか、参加者がどのような学びを得たのか、といった点まで踏み込むべきである。 もちろん、これらは１～2 年で簡単に効果が出るものではない。しかし、この事業が京都全体の魅力向上にどう繋がるかという広い視野を持ち、それを意識した計画や報告を提示していただきたい。 加えて、各大学が単独でできることをコンソが抱え込むべきではないと考える。大学単独では成し得ない、コンソだからこそできる先進的な取組をぜひ計画に盛り込んでいただきたい。
川勝委員長	山﨑委員の意見のとおり、数字の単なる増減ではなく、その結果をコンソがどのように評価し、このままでいいのか、もっと改善の余地があるのかまで分析することが重要。これがなければ認識の違いが生まれる。このあたりも含めて、提出書類にも記載いただき、プレゼンテーションの際にもお話いただきたい。 アンケート収集にあたっては、回答者へのインセンティブがないとなかなか難しい。このため、一般や機関向けに一律にアンケートを送付するだけではなく、大学とのつながりを活用した特定の教職員へのピンポイントな個別アプローチなど、実のある回答を集める工夫を行ってほしい。
有田委員	大学からのニーズが減少している中で、そのことをどのようにコン

	ソが認識しているのか記載いただきたい。
川勝委員長	コンソの体制も充実しているわけではないので、注げるリソースはコンソに求められていることに集中した方がいいのではないかと思う。 今回、学生 PLACE＋事業を新たにお願いするため、本来は体制強化しないといけないと思うし、今の体制でできるとしても、質が落ちることは避けなければいけない。そのためにも、コンソだからこそ求められている点に集中すべきである。いずれにしても、分析が重要にはなってくる。 各種提出資料については、具体的な記載が必要ではあるものの、選定要項など資料自体に大きな変更は不要だと思うので、修正部分は一任でよいか。
	＜異議なし＞
（５）審査方法及び審査項目について（非公開）	
	（非公開での審議のため、摘録の公開なし。）

４　その他

事務局	委員の皆様の闊達な御議論に感謝する。 今後のスケジュールについて説明する。 ＜資料８の説明＞ 今回いただいた御意見を踏まえ、事務局で修正を行う。 なお、次回の開催については、委員の皆様の率直な意見交換と意思決定の中立性を確保するため、非公開とさせていただきたいと考えているが、御異義はないか。
	＜異議なし＞
事務局	では、冒頭から非公開にて実施する。 本日は、以上とさせていただく。